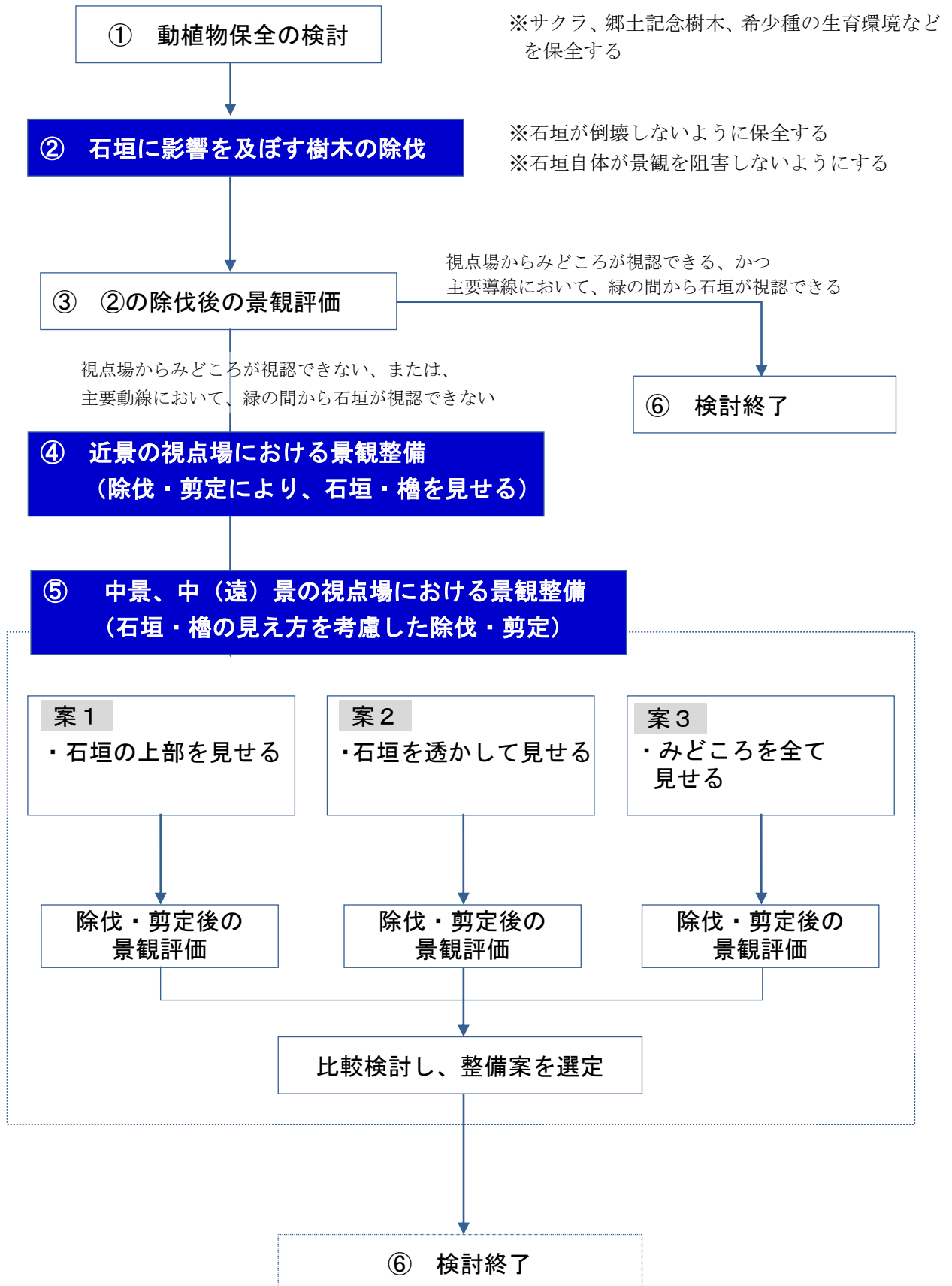


## 4. 景観形成方策

### 4-1. 整備検討フロー

以下のフローで、景観形成を行う。



## 4-2. 動植物保全の検討

### 4-2-1 サクラの保全・樹勢回復

サクラは、景観の1つの要素として欠かせない。サクラの美しさに誘われ園内を周遊し、明石城を感じることができる。しかし、明石公園のサクラは、老朽化が著しく本来の美しさがいないため、保全策についても検討する。

#### (1) サクラの保全

明石公園は平成2年3月に「日本における桜名所100選の地（日本桜の会）」に指定されたように、公園内には1,014本のサクラ（大部分はソメイヨシノ）があり、その景観の見事さなどから千本桜と賞せられており、桜の開花時期は毎年多くの来園者で賑わっている。

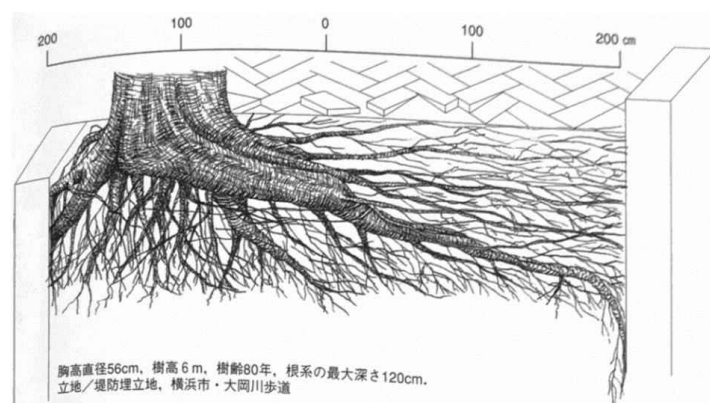
明石城付近でも、帯曲輪の石垣直近等にサクラが植樹されている。

『最新 樹木根系図説』（苅住 昇）によると、ソメイヨシノ（胸高直径20cm、樹高6m）の根は広がり直径2.8m（半径1.4m）であり、その材質は柔らかく、下図のように構造物直近で曲折するとされており、石垣に侵入する恐れは低い。



帯曲輪の桜

したがって、明石公園においてサクラは重要な観光資源であり、なおかつ石垣に影響を及ぼさない樹種であるため、石垣直近のサクラにおいても保全する。



サクラの根の広がり（付近に構造物がある場合）

#### (2) サクラの樹勢回復

##### ①基本的な考え方

明石公園のサクラはその多くが樹齢60年を超え樹勢が衰えてきており、樹勢を回復させることが「明石城 城と緑の景観づくり」のためには喫緊の課題となっている。

特に、平成31年度に開催予定の明石城築城400周年記念事業（仮称）が花芽豊かなサクラ満開のもとで開催できるよう、平成29年度、平成30年度の2年間は

意欲的に樹勢回復に取り組まなければならない。

その中でも、築城 400 周年記念事業（仮称）時に来園者の目に触れやすい「本計画の検討範囲及び第 1 野球場周辺」（以下、南エリア）におけるサクラの樹勢回復の取組を優先的に実施することとする。（全体本数：1,014 本 南エリア：251 本）



樹勢の衰えた明石公園のサクラ



青森県弘前城の樹勢盛んなサクラ（樹齢 120 年）

## ②桜の現況と対策（対処治療）

平成 28 年度に NPO 法人兵庫県樹木医会に委託した現況調査と対処治療は下表のとおりである。

対処治療項目	全体本数	うち南エリア	治療内容	効果
害虫駆除	265	43	主にコスカシバの駆除	サクラの基礎体力の向上
施肥・土壌改良	995	251	根を傷めないエアースコップ作業による	サクラの基礎体力の向上
枯枝剪定	821	215	サクラの成長を妨げる枝の除去	サクラの基礎体力の向上
被圧木剪定	441	140	日陰を作っている樹木の剪定	外的な悪影響の低減
深植対策	52	13	固い土壌を採石に置換し通気性確保	外的な悪影響の低減
主幹切替剪定	351	105	腐朽した幹を切除	元気な幹を発生させる



コスカシバ（害虫駆除）



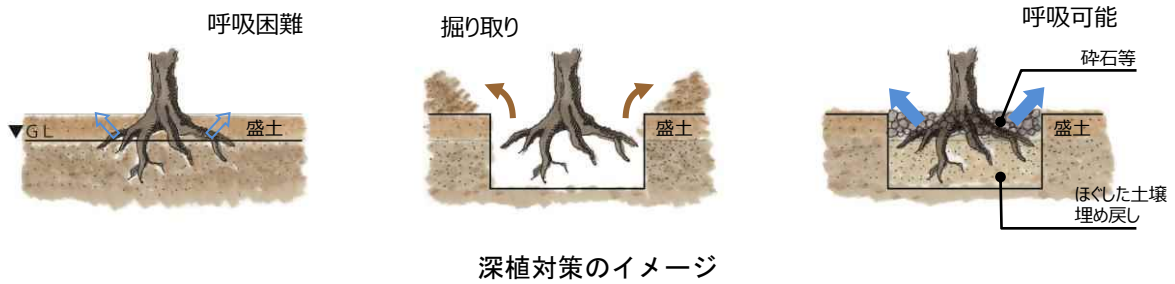
エアースコップ作業（施肥・土壌改良）



被圧木剪定前



被圧木剪定後（日照を確保）



### ③樹勢回復の取組方針

ア 毎年継続して実施する取組

害虫駆除・施肥は全エリアで毎年実施する。(樹勢を回復させるとともに回復した樹勢を維持させる)

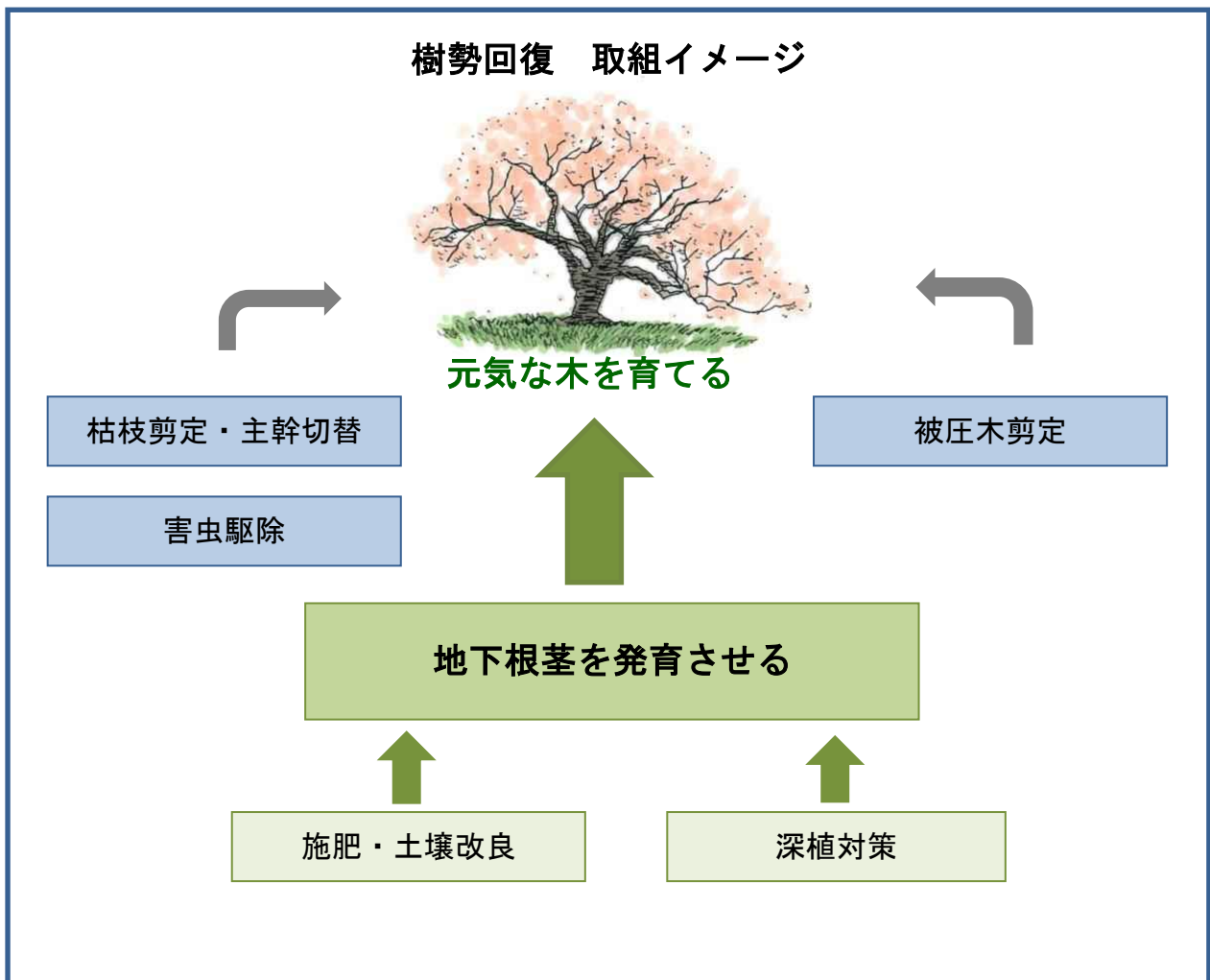
イ 平成 29 年度及び 30 年度に実施する取組

土壌改良、枯枝剪定、被圧木剪定、深植対策を実施する。優先順位として南エリアから着手し、少なくとも南エリアの対策は今年度中に完了させる。

なお、明石城付近の被圧木剪定については、除伐計画と整合させる。

ウ 平成 31 年度以降に実施する取組

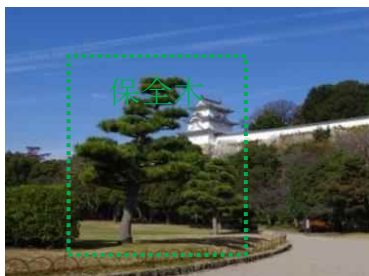
効果の発現に 3～5 年かかる主幹切替剪定は平成 31 年度以降とする。



## 4-2-2 その他の保全

その他、公園の性格上特徴的な樹木は原則保全する。なお、現位置で保全することが石垣等の保全に支障がある場合、移植を行う。

- ・マツ（絵図に描かれている、築城当時の明石城を感じさせる樹種）
- ・ラクウショウ（兵庫県郷土記念物指定）
- ・シナノガキ（県下最大のシナノガキ）



マツ



郷土記念樹  
(ラクウショウ)



県下最大のシナノガキ

### 4-2-3 希少種の保全

計画対象範囲には多数の希少種が生息・生育している。そのため、整備をするにあたり、それらの生息・配慮環境にする必要がある。

#### (1) 史跡エリアに生息する希少種

場所：	場所：	場所：	場所：
県※ <sup>1</sup> ： 環※ <sup>2</sup> ：—	—	—	—
場所：	場所：	場所：	場所：不明
—	—	—	—
場所：	場所：	場所：	場所：
—	—	—	—

※1 兵庫県版レッドデータブック ※2 環境省レッドリスト

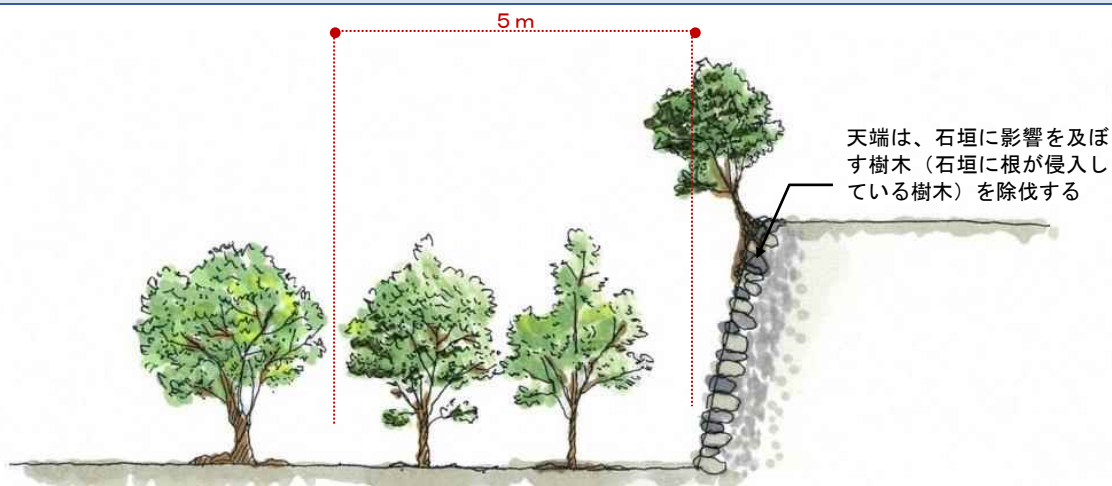
#### (2) 除伐による希少種への影響及び影響がある場合の保全策

種名	影響の有無	保全策等
		周囲の樹木を存置し、生育環境を保全する（除伐しない）
		周囲の樹木を存置し、生育環境を保全する（除伐しない）
		、除伐による影響なし
		、除伐による影響なし
		天然記念物に指定し、保全する（除伐しない）
		、除伐による影響なし
		、除伐による影響なし
		（生育場所不明）除伐による影響なし
		発見された場合、巣の移植を検討する
		は、本計画では存置とするため影響なし
		は、本計画では存置とするため影響なし
		は、本計画では存置とするため影響なし

## 4-3. 石垣に影響を及ぼす樹木の除伐

### (1) 方針

- ① 石垣の保全のため、石垣より5m範囲以内で樹木は原則除伐する。ただし石垣に影響を与えない樹木は除伐対象としない。
- ② ただし、サクラは石垣への影響が少ないため、除伐対象としない。



※樹高7~12mの高木で直径10mが根の伸長範囲である。

(財団法人日本緑化センター著『植栽基盤整備技術マニュアル(案)』より)

※丸亀城の事例では、荻住昇著『最新樹木根系図説総論』における樹木の根の広がりをもとに、石垣より5m以内の樹木を除伐としている。

※伊予松山城の事例では、火災による遺構の損傷を防止するため、建築基準法第2条第6項における延焼のおそれのある部分を根拠に、石垣より5m以内の樹木を除伐としている。

※桜は石垣直近に生育しても、石垣に根が侵入する恐れが低い。



整備前(現況)



整備イメージ



石垣から5m以内の樹木



石垣に根が侵入している樹木



石垣周辺樹木の根の広がり

## (2) 除伐による景観の整備評価

### ①全体評価

#### ■除伐量

- ・除伐本数/検討対象全体本数 = 279本 / 772本 ≒ 36%

#### ■剪定本数

- ・0本

#### ■視点場からの距離別の変化

- ・中景・中遠景では、手前に樹木が繁茂しているため、ほとんど変化がない。
- ・近景では、一部の範囲では樹木がほとんど除伐されるため、石垣・櫓が障害なく視認できるようになる。

例) 異櫓東側、二の丸へ上がる階段付近など



異櫓東側

サクラを除き、すべての樹木を除伐





二の丸へ上がる階段

石垣上部にある全ての樹木を除伐



②視点場毎の景観の評価

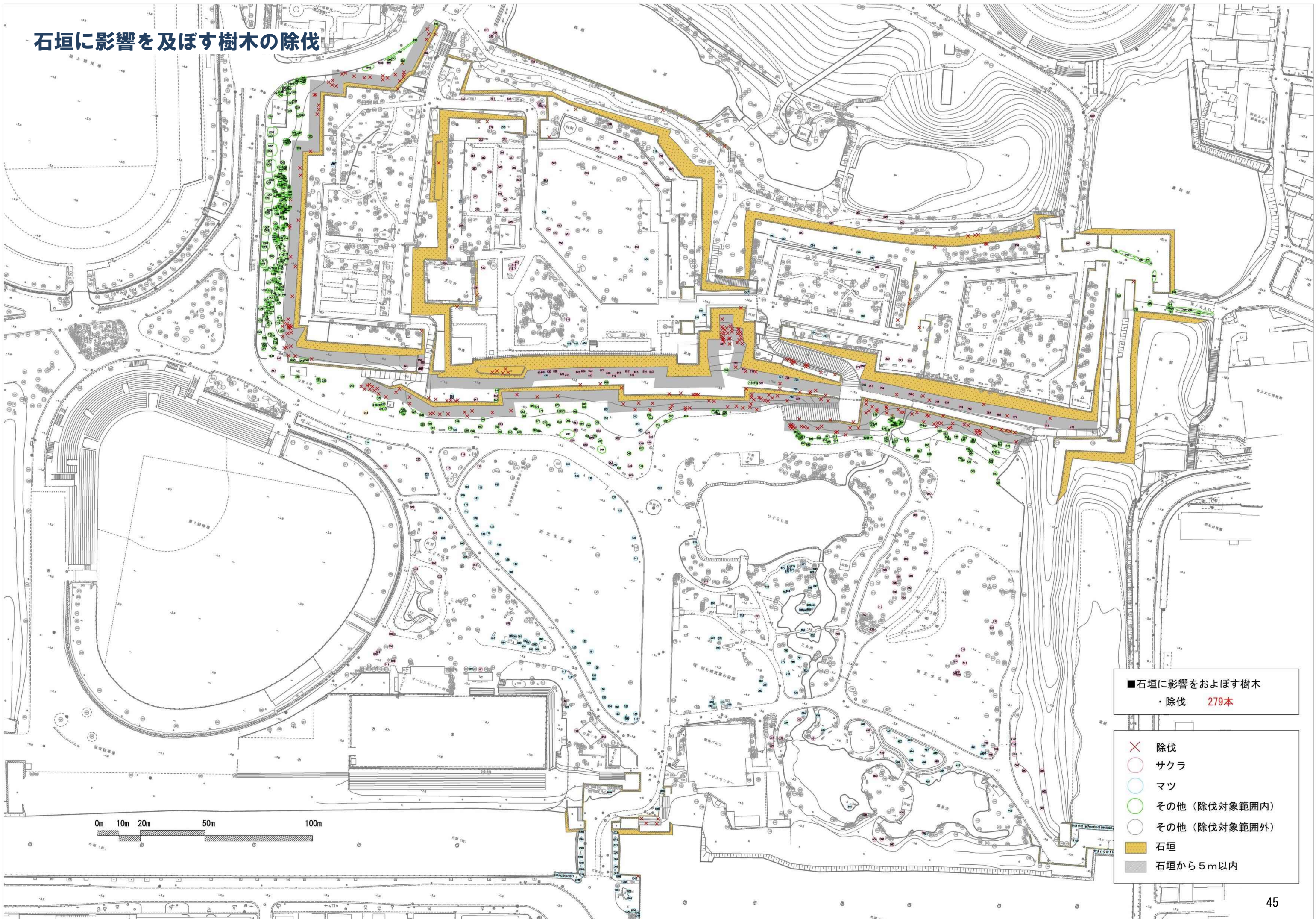
		みどころ	整備後の景観
シーンA		稜線	若干緑の奥に石垣が透けて見えるようになるが、景観上、ほとんど変化はない。
シーンB		大手門跡	天端のアキニレを除伐することにより、櫓や門跡が見えるようになり、目指す景観が形成される。
シーンC		稜線/威容	若干緑の奥に石垣が透けて見えるようになるが、石垣の稜線や威容は確認できない。異櫓隅部が若干視認できるようになるが支障となる樹木は残る。
シーンD		稜線/威容	若干緑の奥に石垣が透けて見えるようになるが、石垣の稜線や威容は確認できない。櫓隅部が若干視認できるようになるが支障となる樹木は残る。
シーンE		石垣隅部	櫓隅部が若干視認できるようになるが支障となる樹木は残る。
シーンF		石垣隅部	ほとんど変化なし。石垣隅部の視認に支障となる樹木が残る。

		みどころ	整備後の景観
シーンG		隅部/威容	巽櫓東側および石垣下の樹木が除伐され、石垣・櫓が視認しやすくなるが、支障となる樹木は残る。
シーンH		隅部/威容	桜を残すため、景観上は変化なし。 石垣の隅部は視認でき、目指す景観が形成されている。

### ③総括

- ・ 除伐量は 279 本で、除伐検討範囲の樹木のうち約 36%を除伐する。
- ・ 中景・中（遠）景では大した変化はないが、近景では、一部石垣・櫓の視認性が格段に上がる場所もあり、良好なシークエンス景観を形成できる。
- ・ 石垣に影響を及ぼす樹木を除伐することで、石垣が損壊する恐れが少なくなり、安全性が向上する。また、損壊により景観が阻害される恐れも少なくなる。

# 石垣に影響を及ぼす樹木の除伐



- 石垣に影響をおよぼす樹木  
・除伐 279本
- × 除伐
- (pink) サクラ
- (light blue) マツ
- (green) その他(除伐対象範囲内)
- (white) その他(除伐対象範囲外)
- 石垣
- 石垣から5m以内

## 4-4. 近景の視点場における景観整備

### (1) 方針

- ① 視対象となる範囲にある樹木を原則、除伐対象とする。
- ② ただし、サクラ及び貴重及び由来のある樹木は除伐対象としない。

### (2) 除伐による景観の整備評価

近景の視点場（シーンE、シーンF、シーンG）においては、石垣に影響を及ぼす樹木を除伐することにより、おおよそ、石垣の隅部が視認できるようになるが、さらに支障となる樹木があることから、樹木の除伐を行う。

視対象の範囲では樹木がほとんど除伐されるため、石垣・櫓が障害なく視認できるようになる。



整備前（現況）



整備イメージ

## 4-5. 中景・中（遠）景における景観整備

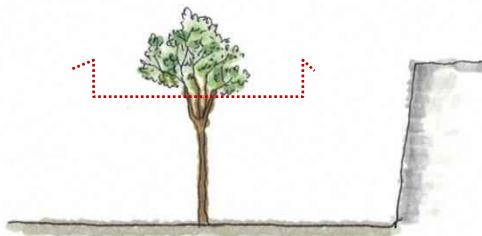
中（遠）景の視点場（シーンA（JR 明石駅ホーム））からは、石垣に影響する樹木の除伐を行っても、除伐前と景観上は大差がない。また、中景の視点場（シーンC、シーンD）においても、石垣に影響を及ぼす樹木の除伐のみでは、手前の樹木に阻害され、石垣・櫓が視認しづらいと推測される。

そこで、まず、中景の視点場から明石城のみどころが視認できるよう、石垣の見せ方を比較検討し、その後、中景の景観整備による中（遠）景の視点場からの景観の変化を示すこととする。

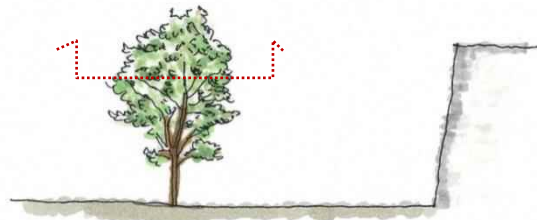
### 4-5-1 案1：石垣の上部を見せる

#### （1）整備方針

- ・石垣の規模（東西 380m）を見せるため、石垣の上部が連続して視認できるよう **除伐・剪定**する。
- ・石垣の上部を見せる量は、石垣周辺の樹木による木陰を残すことに配慮し、全高の1/4程度とする。
- ・除伐木の選定は、視点場からの緑の見え方にも配慮し、1/4以下の石垣も微かに見えるよう、また濃淡のある緑陰の形成を行えるよう剪定を行う。
- ・西芝生広場内の高木（クスノキ等）は、公園利用に配慮し除伐は行わず剪定を行う。

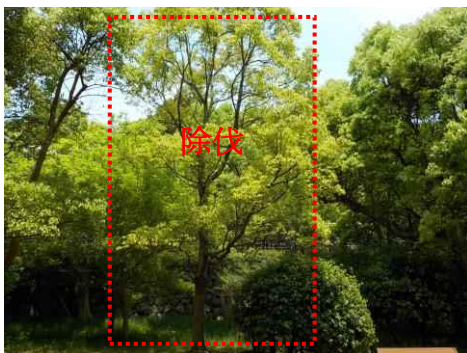


下枝があがっており、剪定すると樹形を損なうため、除伐とする。



下枝があり、樹形を損なわずに剪定可能なため、剪定とする。

#### 剪定・除伐の選択基準



除伐（剪定の場合棒立ちとなる）



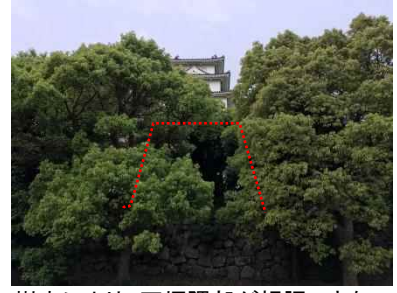
剪定（剪定しても樹形を損なわない）



石垣の隅部と櫓



石垣の隅部



樹木により、石垣隅部が視認できない

## (2) 中景の整備イメージ



整備前（現況）



整備イメージ

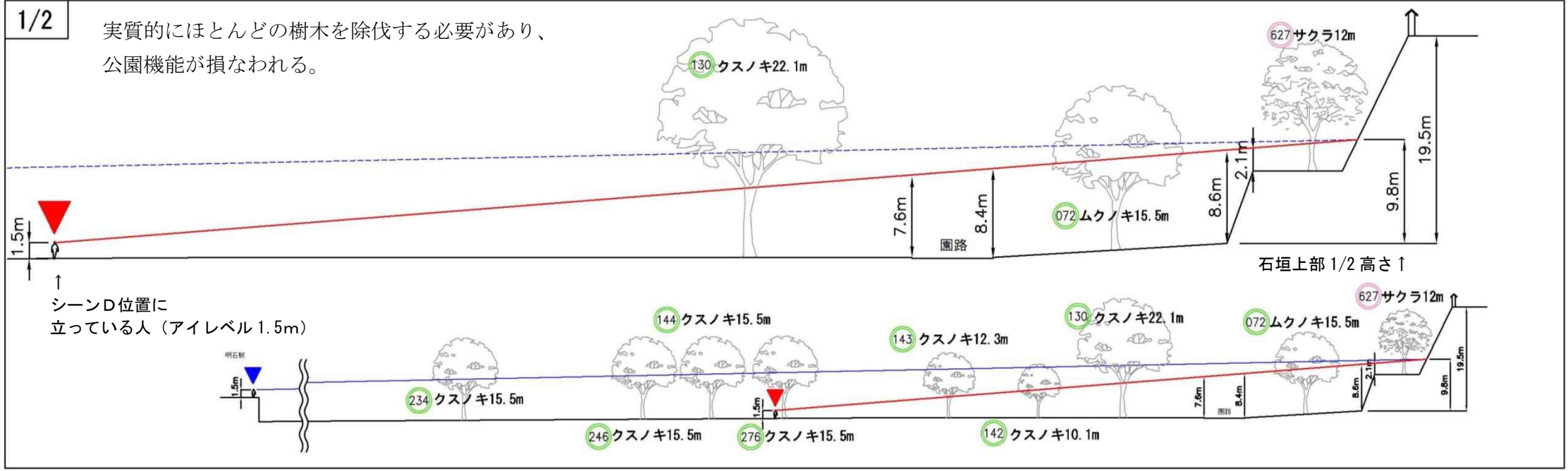
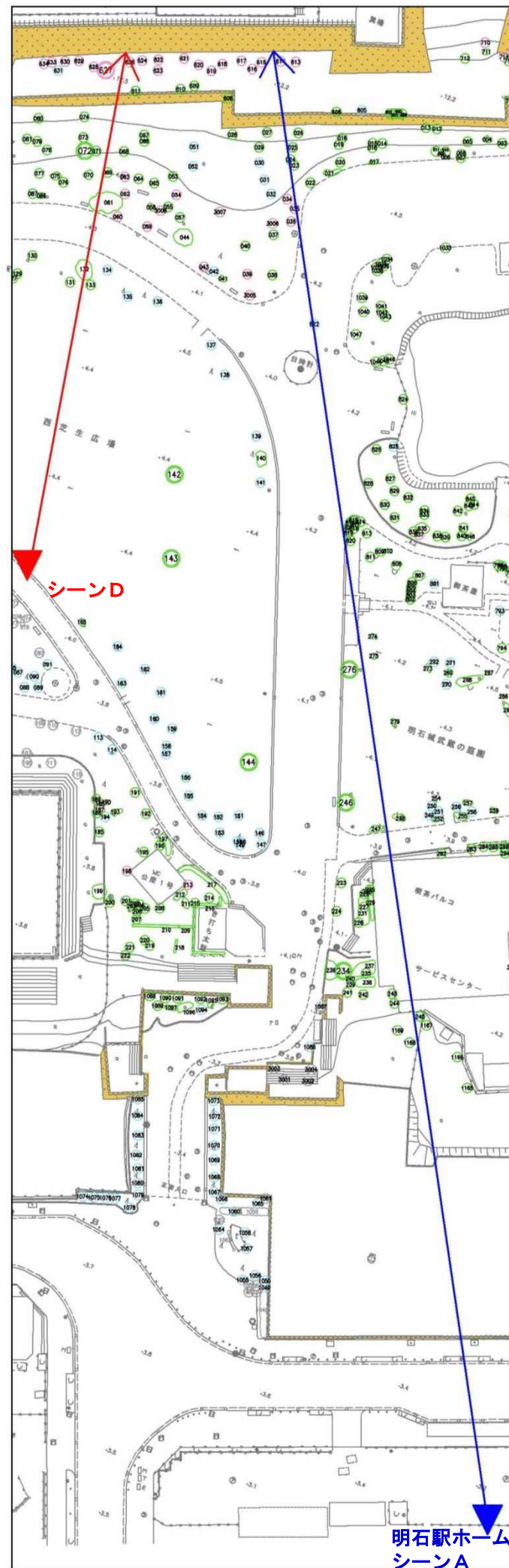
(3) 中(遠)景の整備イメージ



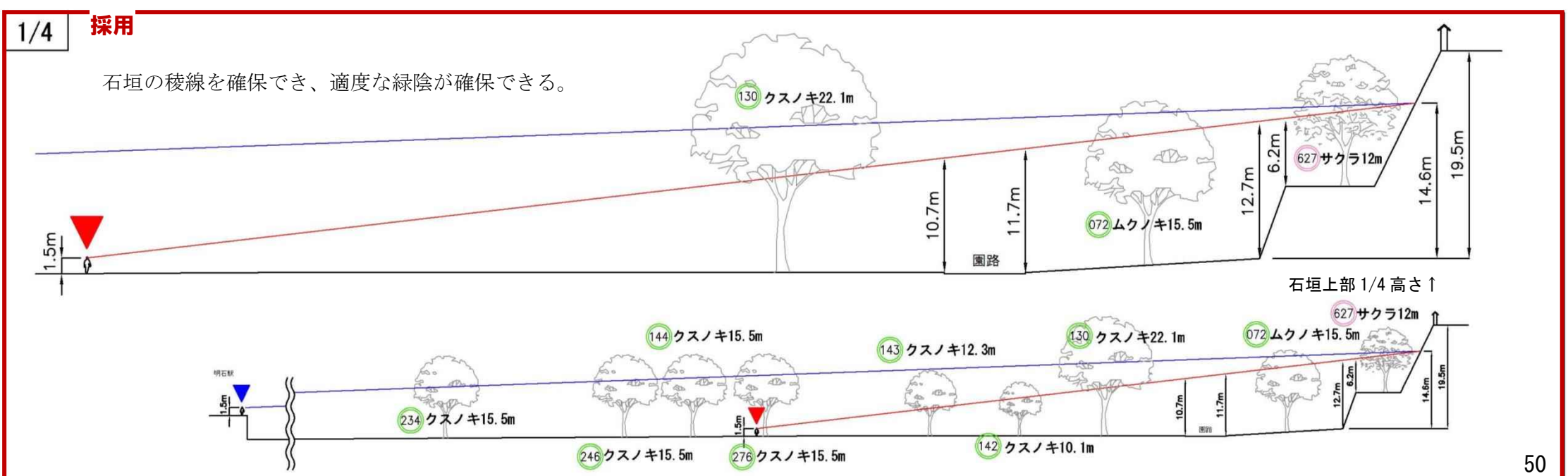
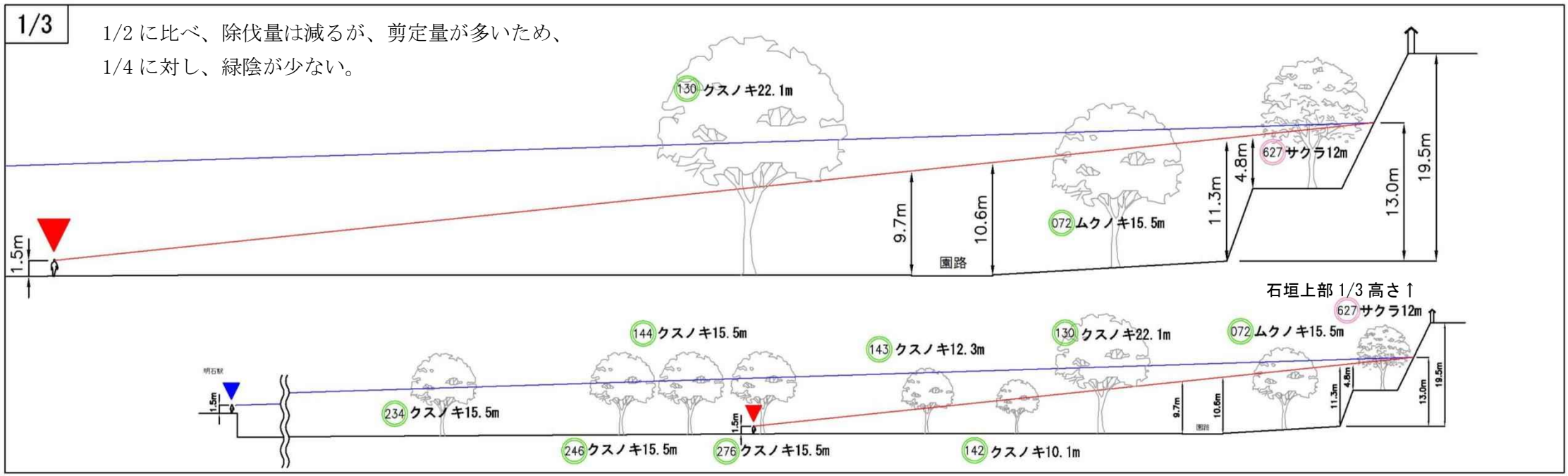
整備前



整備後イメージ



※樹高は平成17年毎木調査から算定した推定値のため、実際とは異なる可能性がある





#### (4) 除伐による景観の整備評価

##### ①全体評価

###### ■除伐量

- ・ 除伐本数/検討対象全体本数 =  $\frac{340 \text{ 本}}{772 \text{ 本}} \approx 44\%$   
(石垣影響 279 本 + 見せ方 61 本)

###### ■剪定本数





- ・ 9 本 (石垣上部を見せるための樹高約 10m以下に剪定)
  - ・ 43 本 (明石駅からの眺望確保)
- ＝計 52 本

###### ■視点場からの距離別の変化

- ・ 中遠景である JR明石駅ホームから、石垣上部が視認でき、稜線が確認できるようになる。
- ・ 中景においても、石垣の上部が視認でき、稜線が確認できるようになる。
- ・ 近景では、隅部周辺の樹木を除伐するため、石垣隅部や、櫓が障害なく視認できるようになる。

##### ②視点場毎の景観の評価

		みどころ	整備後の景観	評価
シーンA		稜線	石垣の稜線が東西に渡り、連続的に視認できるようになる	◎
シーンB		大手門跡	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐により、目指す景観は形成されている。)	○
シーンC		稜線/威容	石垣の稜線 (天端から 1/4 程度) が連続的に視認できるようになる	◎
シーンD		稜線/威容	石垣の稜線 (天端から 1/4 程度) の一部が視認できるようになる	◎

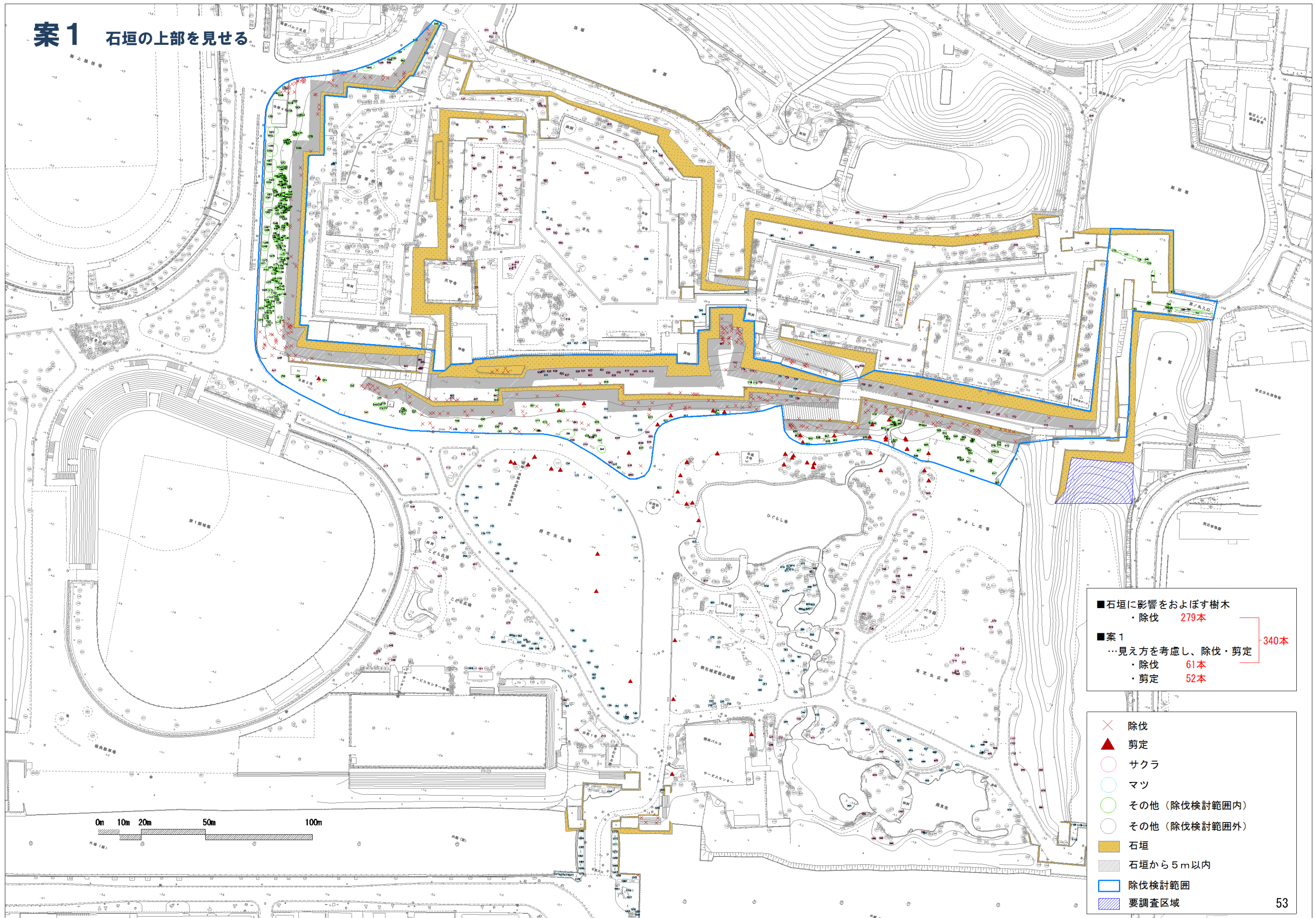
		みどころ	整備後の景観	評価
シーンE		石垣隅部	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	◎
シーンF		石垣隅部	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	◎
シーンG		隅部/威容	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	◎
シーンH		隅部/威容	桜を残すため、景観上は変化なし。 石垣の隅部は視認でき、目指す景観が形成されている。	○

評価結果 ◎ : 6 ○ : 2

### ③総括

- ・ 除伐量は 340 本で、除伐検討範囲の樹木のうち約 44%を除伐する。
- ・ 西芝生広場や武蔵の庭園付近の大径木を含め、樹木を剪定するため、中景のみならず、中（遠）景においても石垣の稜線が視認できるようになる。
- ・ 近景では、特に隅部が視認しやすくなる。

# 案1 石垣の上部を見せる



■ 石垣に影響をおよぼす樹木  
 ・ 除伐 279本  
 ■ 案1  
 …見え方を考慮し、除伐・剪定  
 ・ 除伐 61本  
 ・ 剪定 52本

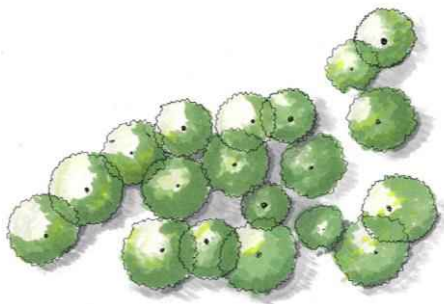
340本

- ✕ 除伐
- ▲ 剪定
- サクラ
- マツ
- その他 (除伐検討範囲内)
- その他 (除伐検討範囲外)
- 石垣
- 石垣から5m以内
- 除伐検討範囲
- 要調査区域

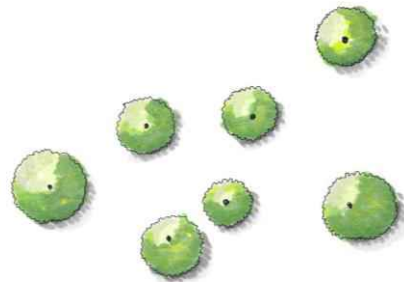
## 4-5-2 案2：石垣を透かして見せる

### (1) 方針

- ・石垣が部分的に石垣の高さが見えるよう、密植している樹木を除伐する。
- ・西芝生広場内の高木（クスノキ等）は、公園利用に配慮し除伐は行わず剪定を行う。



現地調査により、密植している樹木群を選定する



樹木の視認性考慮し、適度に間引く



密植した樹木の例1



密植した樹木の例2

×…除伐

(2) 中景の整備イメージ



整備前（現況）



整備イメージ

(3) 中（遠）景の整備イメージ



整備前



整備後イメージ

#### (4) 除伐による景観の整備評価

##### ①全体評価

###### ■除伐量

- ・ 除伐本数/検討対象全体本数 =  $\frac{392 \text{ 本}}{772 \text{ 本}} \approx 51\%$   
(石垣影響 279 本 + 見せ方 113 本)

###### ■剪定本数





- ・ 10 本 (石垣を透かして見せるための剪定)
  - ・ 43 本 (明石駅からの眺望確保)
- = 計 53 本

###### ■視点場からの距離別の変化

- ・ 中 (遠) 景である J R 明石駅ホームからは、全体的にみて、除伐前と大差ない。若干石垣が透けて見えるようになる。
- ・ 中景において、全体的にうっすらと石垣が視認できるようになる。
- ・ 近景では、隅部周辺の樹木を除伐するため、石垣隅部や、櫓が障害なく視認できるようになる。

##### ②視点場毎の景観の評価

		みどころ	整備後の景観	評価
シーン A		稜線	整備前よりも石垣の稜線・威容が感じられるようになるが、全長に渡る石垣稜線の視認はできない。	◎
シーン B		大手門跡	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の 除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	○
シーン C		稜線/威容	サクラを残すため、景観は変化なし。石垣の隅部は視認でき、目指す景観が形成されている。	○
シーン D		稜線/威容	整備前よりも石垣の稜線・威容が感じられる	○

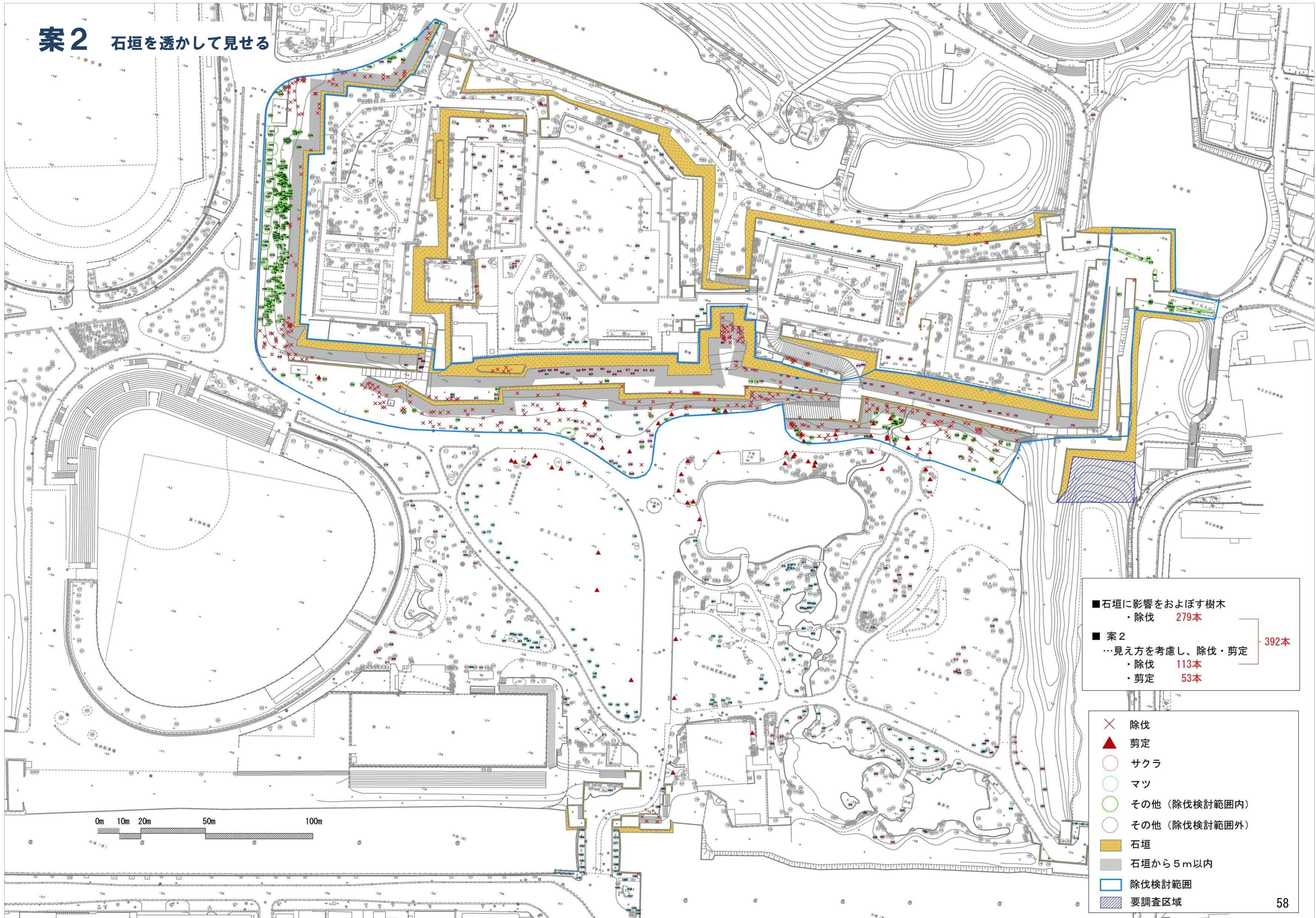
		みどころ	整備後の景観	評価
シーンE		石垣隅部	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	◎
シーンF		石垣隅部	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	◎
シーンG		隅部/威容	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	◎
シーンH		隅部/威容	桜を残すため、景観上は変化なし。 石垣の隅部は視認でき、目指す景観が形成されている。	○

評価結果 ◎ : 4 ○ : 4

### ③総括

- ・除伐量は392本で、除伐検討範囲の樹木のうち約51%を除伐する。
- ・中(遠)景では、大した変化がない。
- ・中景では、全体的にうっすらと石垣が視認できるようになる。
- ・近景では、特に隅部が視認しやすくなる。

# 案2 石垣を透かして見せる



■ 石垣に影響をおよぼす樹木  
 ・ 除伐 279本  
 ■ 案2  
 …見え方を考慮し、除伐・剪定  
 ・ 除伐 113本  
 ・ 剪定 53本  
 } 392本

- × 除伐
- ▲ 剪定
- (赤) サクラ
- (青) マツ
- (緑) その他 (除伐検討範囲内)
- (白) その他 (除伐検討範囲外)
- (黄) 石垣
- (灰) 石垣から5m以内
- (青) 除伐検討範囲
- (斜線) 要調査区域



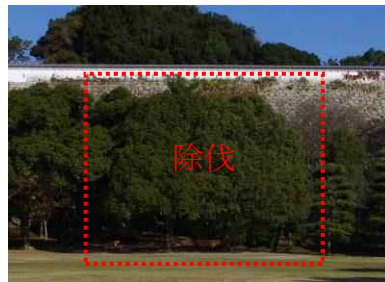
### 4-5-3 案3：みどころを全て見せる

#### (1) 方針

- ・石垣や櫓への眺望や景観を阻害する樹木の除伐
  - ・石垣への眺望を阻害する大径木（高木）の樹木（クスノキ、アラカシなど）はクロマツ、桜を除き除伐する。また中低木は、城と緑のバランスを考慮して除伐する。
  - ・歴史的景観にふさわしくない樹木（外来種）は、除伐する。



除伐樹木の例1  
(石垣の姿を見せる)



除伐樹木の例2  
(石垣への眺望を阻害する大径木)



除伐樹木の例3  
(外来種)

#### (2) 中遠景の整備イメージ



整備前



整備後イメージ

### (3) 除伐による景観の整備評価

#### ①全体評価

##### ■除伐量

- ・ 除伐本数/検討対象全体本数 =  $\frac{570 \text{ 本}}{772 \text{ 本}} \approx 74\%$   
(石垣影響 279 本 + 見せ方 291 本)

##### ■剪定本数



- ・ 29 本 (明石駅からの眺望確保)

##### ■視点場からの距離別の変化

- ・ 中(遠)景である JR 明石駅ホームからは、大部分において石垣上部が視認できるが、芝生広場の大径木などにより、一部視認できない部分が残る。
- ・ 中景において、石垣が視認できるようになる。
- ・ 近景では、隅部周辺の樹木を除伐するため、石垣隅部や、櫓が障害なく視認できるようになる。
- ・ 近景においても、全体的にうっすらと石垣が視認できるようになる。

②視点場毎の景観の評価

		みどころ	整備後の景観	評価
シーンA		稜線	整備前よりも石垣の稜線・威容が感じられるようになる	◎
シーンB		大手門跡	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	○
シーンC		稜線/威容	整備前よりも石垣の稜線・威容が視認できるが、樹木が著しく減少し目指す景観と合わない	×
シーンD		稜線/威容	整備前よりも石垣の稜線・威容が視認できるが、樹木が著しく減少し目指す景観と合わない	×
シーンE		石垣隅部)	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	◎
シーンF		石垣隅部	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	◎

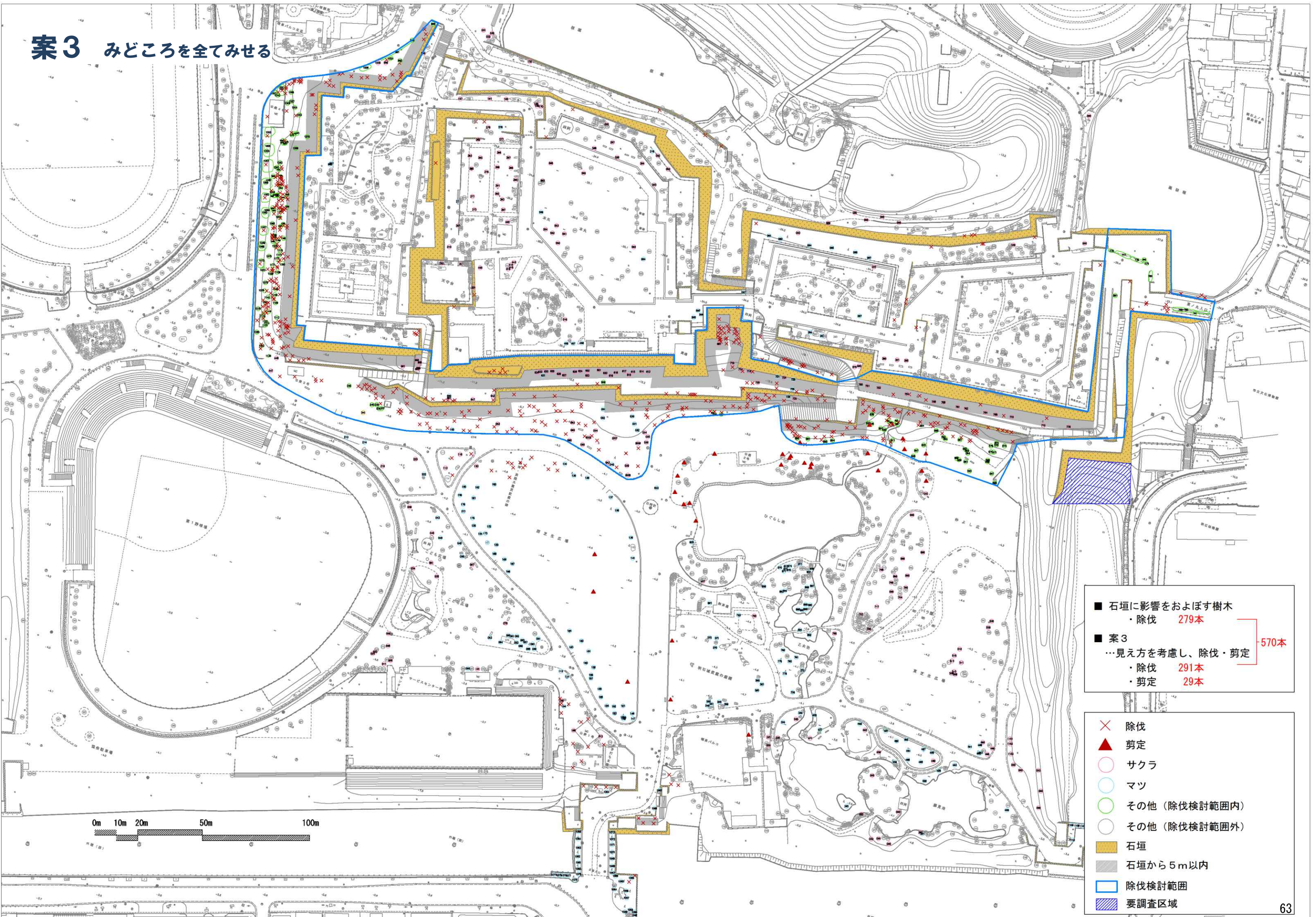
		みどころ	整備後の景観	評価
シーンG		隅部/威容	変化なし (石垣に影響を及ぼす樹木の除伐、石垣前の除伐により、目指す景観は形成されている。)	◎
シーンH		隅部/威容	サクラを残すため、景観は変化なし。 石垣の隅部は視認でき、目指す景観が形成されている。	○

評価結果 ◎ : 4 ○ : 2 × : 2

### ③総括

- ・ 除伐量は570本で、除伐検討範囲の樹木のうち約74%を除伐する。
- ・ 中（遠）景では、大部分において石垣上部が視認でき、断続的に稜線が確認できるようになる。
- ・ 中景では、全体的に石垣が視認できるようになる。
- ・ 近景では、特に隅部が視認しやすくなり、全体的にうっすらと石垣が視認できるようになる。

# 案3 みどころを全てみせる



■ 石垣に影響をおよぼす樹木  
 ・除伐 279本  
 ■ 案3  
 …見え方を考慮し、除伐・剪定 570本  
 ・除伐 291本  
 ・剪定 29本

- ✕ 除伐
- ▲ 剪定
- サクラ
- マツ
- その他 (除伐検討範囲内)
- その他 (除伐検討範囲外)
- 石垣
- 石垣から5m以内
- 除伐検討範囲
- 要調査区域

4-5-4 シークエンス景観 比較検討表

前述した除伐方針3案について、「目指す景観」、「除伐・剪定本数」、「公園機能」、「経済性」、「事後整備」の面から比較検討を行う。

		案1	案2	案3	
見せ方		<ul style="list-style-type: none"> <li>東西 380mの石垣の稜線を連続して見せる（中遠景）</li> <li>緑の上に石垣を見せる。石垣前の樹木には濃淡のある緑陰を設ける（中景）</li> <li>石垣前の樹木は除伐し隅部を見せる（近景）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西 380mの石垣の稜線を見せる（中遠景）</li> <li>緑の中に石垣を全体的に透かして見せる（中景）</li> <li>石垣前の樹木は除伐し隅部を見せる（近景）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西 380mの石垣の稜線を見せる（中遠景）</li> <li>みどころを全て見せる（中景）</li> <li>石垣前の樹木は全て除伐し石垣の全体・隅部を見せる（近景）</li> </ul>	
フォト モン タージュ		 <p>中景</p>  <p>中遠景</p>  <p>近景</p>	 <p>中景</p>  <p>中遠景</p>  <p>近景</p>	 <p>中景</p>  <p>中遠景</p>  <p>近景</p>	
目指す 景観		<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木量や石垣の見え方は明治時代の明石城（明石公園）に近い。</li> <li>明石駅ホーム（中遠景）から石垣の連続した稜線や櫓の姿を見ることができる。また、園内（中景）からも樹木の上に石垣が見え石垣の高さなど迫力が感じられる。</li> <li>石垣直近（近景）では、石垣の隅部の姿を見ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木量は明治時代の明石城（明石公園）に近いが、園内（中景）からの石垣の見え方は明治時代とやや異なる。</li> <li>明石駅ホーム（中遠景）から連続した稜線や櫓の姿を見ることができる。園内（中景）からは樹木の隙間に石垣を見ることができるが、石垣の上部や一部隠れており案1に比べて石垣の高さや迫力を感じにくい。</li> <li>石垣直近（近景）からは、石垣の隅部の姿を見ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マツ・桜のみの景観であり、比較的江戸時代の景観に近く、本計画で目指している、明治時代の景観とは大きく異なる。</li> <li>明石駅ホーム（中遠景）から石垣・櫓の稜線が確認でき、園内（中景）では樹木が少なく、石垣・櫓がはっきりと表れた姿を楽しめる。石垣直近（近景）では、マツ・サクラのみの江戸時代に似た景観を感じられる。</li> </ul>	◎ ○ ×
除伐・剪定 本数		<ul style="list-style-type: none"> <li>最も少ない。</li> <li>→除伐…340本 [石垣保全 279本 近景・中景 61本] (43%)</li> <li>→剪定…52本 [中景 9本、中遠景（明石駅） 43本]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少ない。</li> <li>→除伐…392本 [石垣保全 279本 近景・中景 113本] (51%)</li> <li>→剪定…53本 [中景 10本、中遠景（明石駅） 43本]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多い。</li> <li>→除伐…570本 [石垣保全 279本 近景・中景 291本] (74%)</li> <li>→剪定…29本 [中遠景（明石駅） 29本]</li> </ul>	◎ ○ ×
公園機能 (緑陰)		<ul style="list-style-type: none"> <li>除伐本数が最も少ないため、他案に比べ緑陰が確保可能。</li> <li>緑陰を考慮し除伐木を選定することで、濃淡のある緑陰を形成することが可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>案1に比べ、残置する樹木が少なく適度な緑陰の確保ができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他案に比べ、最も緑陰が少ない。</li> <li>存置する樹木がほとんどないため、緑陰形成が困難である。</li> </ul>	◎ △ ×
経済性	初期 投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>除伐本数が最も少ないため、他案に比べ最も安価である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>案1に比べ、高価である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他案に比べ高価である。</li> </ul>	◎ ○ △
	維持 管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>一定の高さを維持するため、適宜剪定を行う必要があり、他案に比べ高価である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>剪定頻度が低く、維持管理費が案1に比べ安価である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他案に比べ最も安価である。</li> </ul>	◎ ○ △
事後整備		<ul style="list-style-type: none"> <li>高さを基準とするため、定量的な判断が可能であり、整備しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数値的に判断しにくく、個人の裁量になるため、整備しづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に除伐するため、ほとんど整備が不要。</li> </ul>	◎ ○ △
総合 評価		◎	○	×	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>3案のうち、明治時代の景観に最も近づく。</li> <li>シークエンス景観の変遷をみると、動線上を歩くことで変化のある景観を楽しむことが可能である。</li> <li>来園者は、明石駅ホーム（中遠景）から明石城を発見し、誘われるように園内へ足を進める。園路（中景）からは石垣の稜線に沿って樹高が揃っており、また緑の合間から微かに石垣を見ることができることから、石垣の高さ・規模を感じ、楽しむことができ、石垣直近（近景）まで行くと、石垣の細部を確認し、城郭らしさを間近で感じることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治時代の景観に近づくが、他案に比べ石垣の姿が見渡せない。</li> <li>シークエンス景観の変遷をみると、動線上を歩くことで変化のある景観を楽しむことが可能である。</li> <li>来園者は、明石駅ホーム（中遠景）から明石城を発見し、誘われるように園内へ足を進める。園路（中景）からは樹木によって見え隠れする石垣、櫓の景観を楽しむことができ、石垣直近（近景）まで行くと、石垣の細部を確認し、城郭らしさを間近で感じることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の景観に近く、明治時代の景観とはかけ離れる。</li> <li>シークエンス景観の変遷をみると、全体的に樹木が少なく城郭を障害なく視認可能な代わりに、変化の少ない景観となっている。</li> <li>来園者は、明石駅ホーム（中遠景）から明石城を発見し、誘われるように園内へ足を進める。園路（中景）からも特に障害なく石垣・櫓の景観を楽しむことができるが、中景フォトモンタージュのようにサクラの花の景観を楽しめる期間は、1週間程度である。石垣直近（近景）においては、石垣細部を確認し、城郭らしさを間近で感じることができる。</li> </ul>	

以上より、総合的にみて、案1が最も優れているため、案1を採用する。

# 案1に基づく除伐・剪定箇所



中景の視点場  
(シーンD)

中(遠)景の視点場(シーンA)

- 除伐・剪定エリア
- 剪定木
- 📷 視点場
- 主要動線

## 4-6. 視点場への誘導

### 4-6-1 誘導方法の検討

来園者を視点場へ誘導する方法として、サインの設置、ホームページ・パンフレットの配布などが挙げられる。

本計画の対象区域は国指定史跡区域に指定されており、誘導サイン等を設置する場合、様々な協議を行なう必要があるため、サイン設置には時間を要する。

一方、パンフレットは敷地造成を変更する必要がなく、協議も少ないため、サインの設置に比べると短時間で作成可能である。

したがって、サインの設置が完了するまでは、パンフレットのみで視点場へと誘導し、設置完了後は、サインとパンフレットを合わせた誘導を試みる。

### 4-6-2 ホームページ・パンフレットによる誘導

パンフレットにより、来園者に視点場からの眺望の魅力伝え、視点場から視点場への移動により、シークエンス景観を楽しんでいただく。

#### ■パンフレットの例示



姫路城周辺観光パンフレット  
城内の見どころが掲載されている。



越前おの 観光パンフレット（越前大野城）  
撮影スポットまでのアクセスが掲載されている。



### 4-6-3 将来的なサイン計画（視点場の案内）

視点場を園路上に設定するため、視点場を案内するサインは通行や景観に配慮し、路面上に表示する。

#### ■路面表示サインの例示



六本木ヒルズ撮影スポット案内サイン



案内サイン



明石公園における視点場案内サインの例

## 5. まとめ

### 5-1. 明石公園の景観形成の考え方 ー目指す景観の創出

- ・本計画では明治時代の明石公園・明石城の景観を目指すこととし、景観テーマを城と公園の多様な緑とが調和し、かつ明石城の魅力を感じられる「城を活かした公園の景観」と設定した。
- ・明治時代の明石城は、多様な樹種が生い茂るが、明石城の特徴である櫓や石垣の高さ、長さ、隅部が確認できる。
- ・本計画においては、石垣の隅部、稜線、威容をみどころとして設定し、周辺を重点的に整備することで、明治時代のように主要な部分が確認できる景観を創出することとした。
- ・明石城跡全体を歩き石垣や櫓を見ることにより、明石城跡の雰囲気を感じ景観を楽しんでいただくシーケンス景観による魅力づくりを行うこととした。
  - ①中（遠）景（明石駅ホームなど）…明石城の存在を認知させ、城郭に誘う
  - ②中景（園内かつ両櫓が視認できる地点）…①で誘われた人が雄大な景観を楽しむ
  - ③近景（石垣の下や帯曲輪など）…石垣を間近に感じる
- ・みどころが確認できるような優れた視点場を設定し、視点場間をつないだ主要動線を歩くことで、視点場からの優れた眺望と、視点場間の樹木の隙間に石垣・櫓が見え隠れする眺望が連続的に変化する動的・連続的な景観を創出する。



明治時代の様子（明治23年の銅版画）



整備イメージ

## 5-2. シークエンス景観（主要動線におけるストーリー）

設定した主要動線を歩くことで、以下のような景観を楽しみ、明石城の景観に感動していただけるように、景観づくりを行うこととする。

### ① 誘う景観（中遠景：JR明石駅プラットフォームからの眺望）

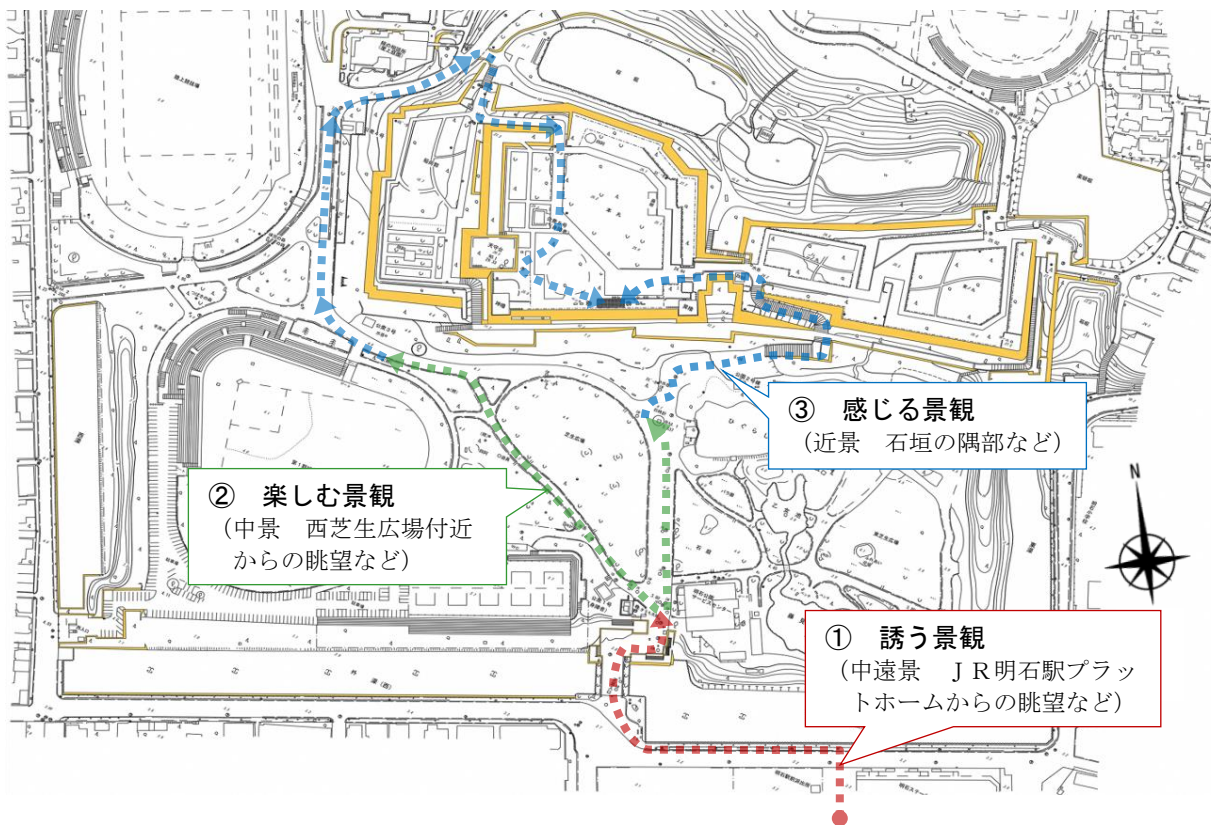
JR明石駅から城の存在を知らしめる櫓と全長380mの石垣からなる統一感のある景観を見せることで、近くで見たいとわくわく感、期待感を膨らませる景観づくりを行う。

### ② 楽しむ景観（中景：西芝生広場付近からの眺望）

期待を胸に足を進めるが、駅を出た後、明石城の姿は一向に確認できない。正面入り口を通り、園内へと足を踏み入れると再び姿を現す明石城の威容に来園者は驚く。そこから正面園路（もしくは西側園路）を歩いていくと明石城の雄大な石垣、両櫓が輪郭を現し、来園者の驚きは城郭を訪れた楽しみに変わる。

### ③ 感じる景観（近景：石垣の隅部）

園路をさらに進み、より明石城に近づくと、一度全貌を現した明石城が再び樹木によって見え隠れする。より見やすい場所を探すためさらに近づくと、石垣の高さや、二段になっていることなどに気づく。櫓の下で歩を止め、櫓を見上げると、江戸時代から残る櫓・石垣が、間近に控えており明石城を感じることができる。特に扇の勾配と言われる反りを持つ石垣の隅部は美しくは明石城の白眉と言える景観である。更に石段を登り、本丸に足を進めると櫓が姿を現す。櫓は、中景から見て感じた以上の大きさがある。そこから、城としての多種多様な景観を楽しむことができ、400年の時空を感じる。



主要動線におけるストーリー

### 5-3. 眺望の変化（フォトモンタージュ）

石垣保全のため石垣周辺の樹木を除伐、また視点場より石垣の上部が視認できるよう樹木を除伐・剪定する。現況に比べ、石垣および櫓が視認しやすくなることが想定される。次頁より、現況と整備後のイメージ（フォトモンタージュ）を比較する。

① 誘う景観づくり（中（遠）景：JR明石駅プラットホームからの眺望）

石垣の上部を連続して見せることで、日本有数の東西約380mに連なる石垣の全長が視認できるよう、支障となる樹木を除伐・剪定する。

整備前



整備後（フォトモンタージュ）



- 整備前と比べ、石垣上部が視認でき、稜線が確認できる。
- 隅部が視認できるようになる。

② 楽しむ景観づくり（中景：西芝生広場付近からの眺望）

公園の樹木と石垣との調和に配慮し、巽櫓・坤櫓間の石垣の上部 1/4 程度と石垣の隅部が視認できるよう、支障となる樹木を除伐・剪定する。



・整備前と比べ、石垣上部や隅部が視認できるようになる。

③ 感じる景観づくり（近景：石垣の隅部）

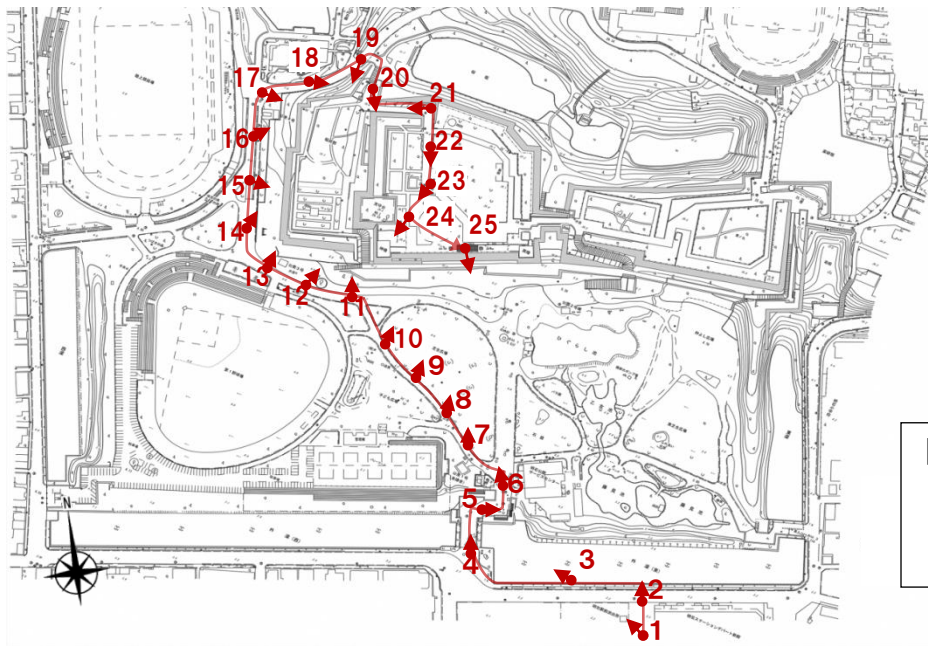
石垣の隅部が直近で視認できるよう、支障となる樹木を除伐・剪定する。



・整備後は、樹木のほとんどが除伐され、石垣隅部および翼櫓が視認できるようになる。

## ■ルート①のシーケンス景観の変化

明石駅 → 堀 → 大手門（正面入口） → サービスセンター  
 → こども広場 → 稲荷曲輪西側 → 桜堀 → 本丸へ

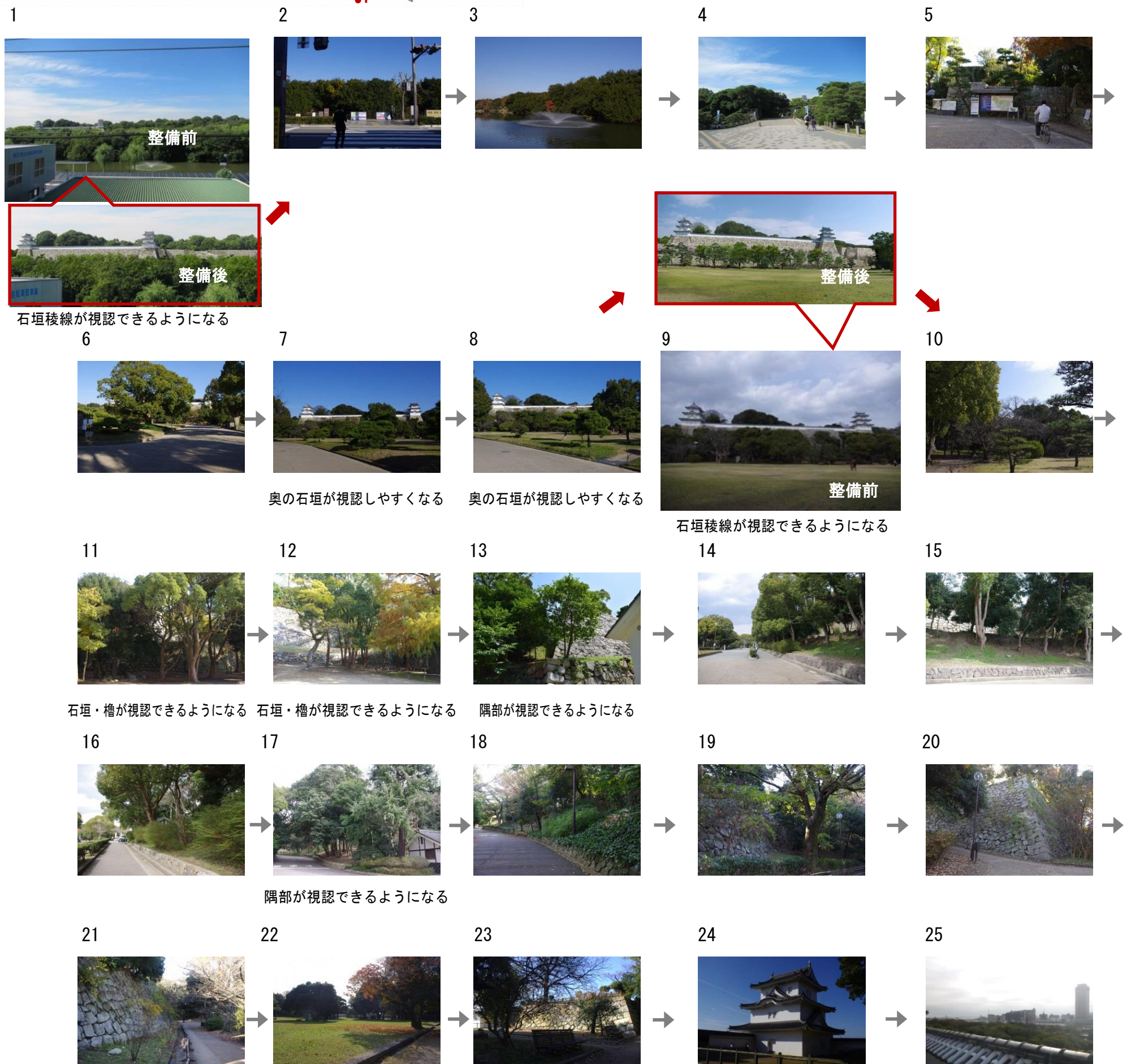


### 【ストーリー】

- ① 誘う景観（中遠景：JR明石駅プラットフォームからの眺望）（写真1-5）  
 駅ホームから明石城の全景を確認させ、来園者の期待を高める。
- ② 楽しむ景観（中景：西芝生広場付近からの眺望）（写真6-9）  
 雄大な石垣・櫓と緑の織りなす景観により来園者を楽しませる。
- ③ 感じる景観（近景：石垣の隅部）（写真10-25）  
 石垣直近や帯曲輪、本丸において石垣の隅部や櫓で城らしさを感じさせる。

### 【シーケンス景観の評価】

中遠景・中景・近景の視点場、移動動線上において変化が見られ、実際に動線を移動し景観を観ることで明石城を楽しみ、感じることができる。

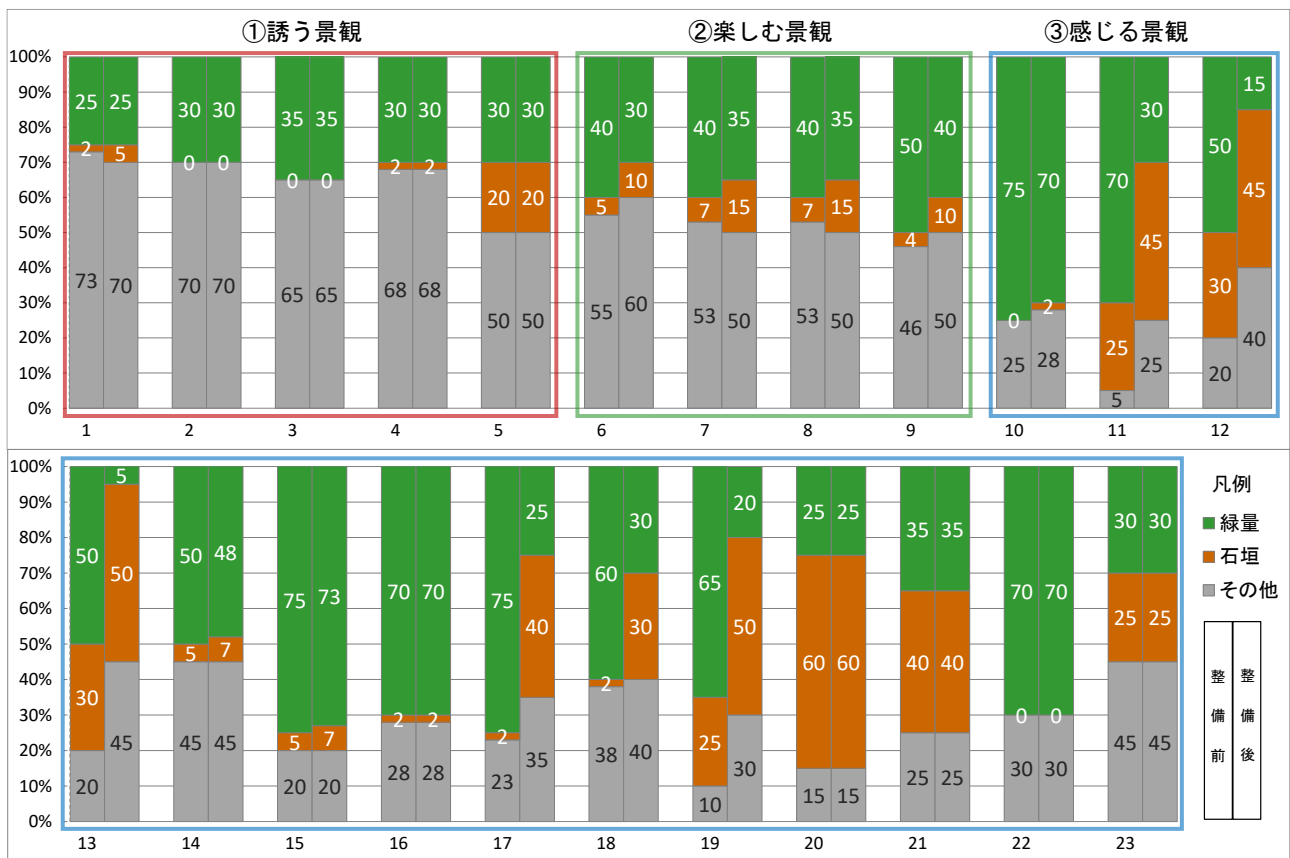




## ■ルート①のシーケンス景観における整備前後の緑量変化

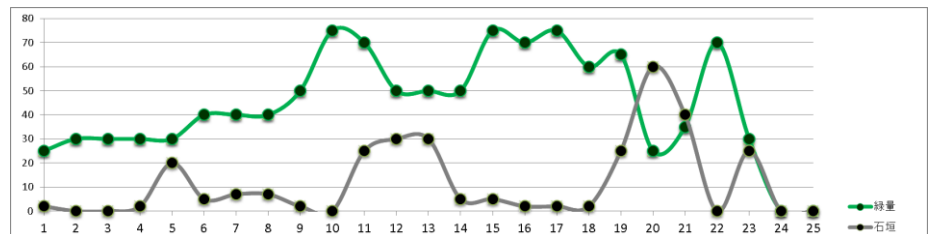
ルート①における整備前後の緑量の変化を以下に示す。

- ・①「誘う」景観では、写真 1（シーンA）からの景観で緑量が減少し、石垣の稜線が視認できるようになる。
- ・②「楽しむ」景観では、特に写真 7、8 で緑量が減少し、石垣・櫓の視認量が増加する。
- ・③「感じる」景観では、石垣直近は除伐量が多いため、ほとんどの地点で樹木量が減少している。特に写真 11、12、13（シーンE）、17、18、19 の隅部および石垣直近の樹木量・石垣視認量の変化が大きい。

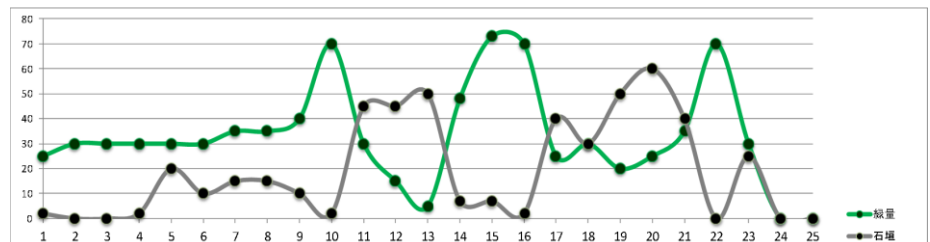


シーン 1 における樹木量・石垣視認量の変化

現況

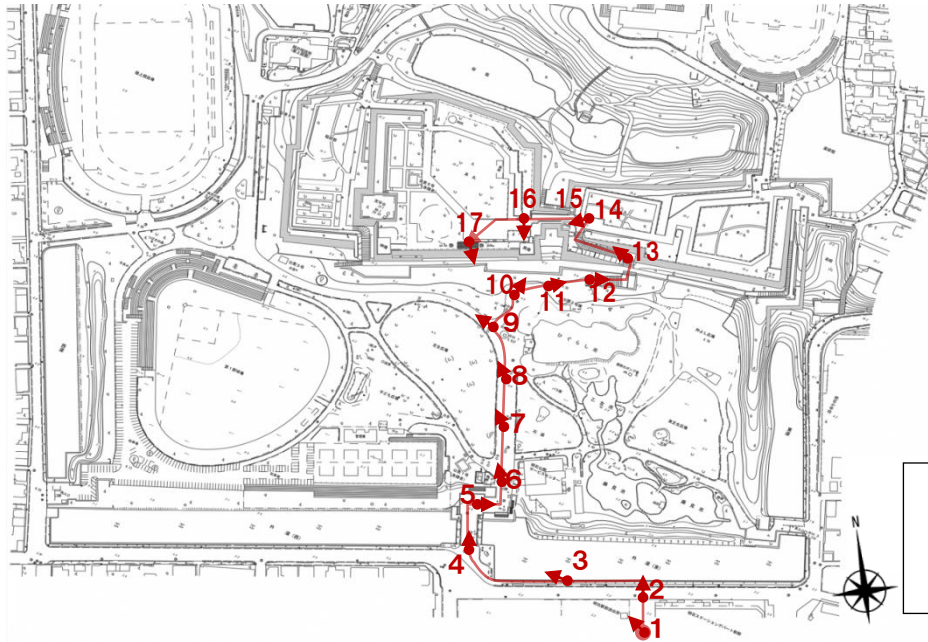


除伐・剪定後



## ■ルート②のシーケンス景観の変化

明石駅 → 堀 → 大手門（正面入口） → サービスセンター  
→ 日時計 → 帯曲輪南側階段 → 二の丸 → 本丸 へ



### 【ストーリー】

- ① 誘う景観（中遠景：JR明石駅プラットフォームからの眺望）（写真 1-5）  
駅ホームから明石城の全景を確認させ、来園者の期待を高める。
- ② 楽しむ景観（中景：西芝生広場付近からの眺望）（写真 6-9）  
雄大な石垣・櫓と緑の織りなす景観により来園者を楽しませる。
- ③ 感じる景観（近景：石垣の隅部）（写真 10-17）  
石垣直近や帯曲輪、本丸において石垣の隅部や櫓で城らしさを感じさせる。

### 【シーケンス景観の評価】

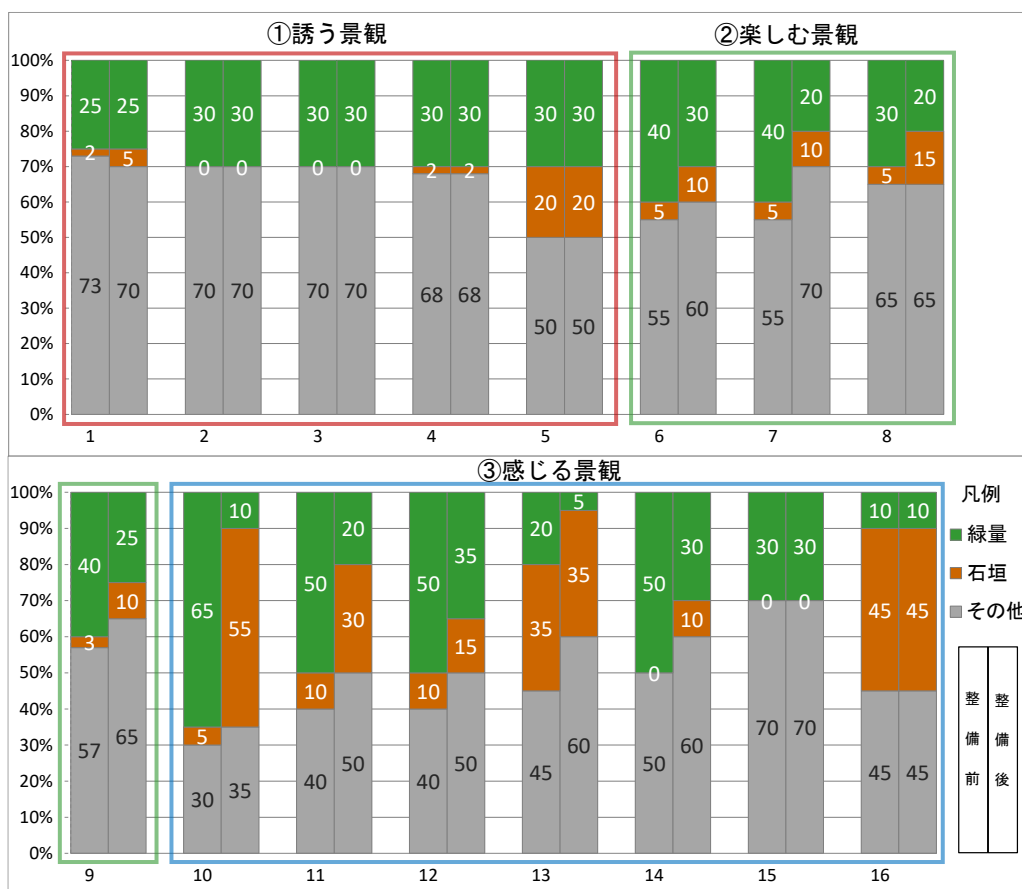
中遠景・中景・近景の視点場、移動動線上において変化が見られ、実際に動線を移動し景観を観ることで明石城を楽しみ、感じることができる。



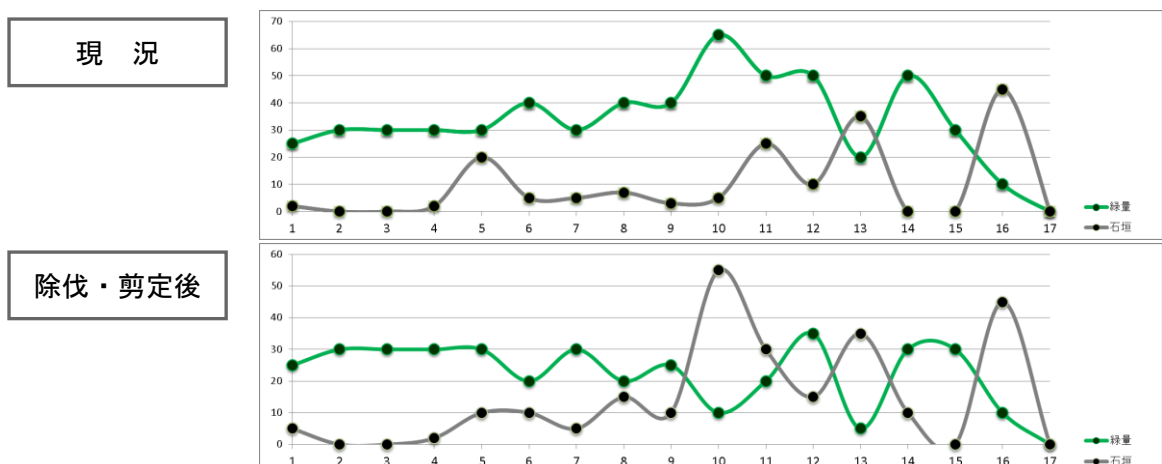
## ■ルート②のシーケンス景観における整備前後の緑量変化

ルート②における整備前後の緑量の変化を以下に示す。

- ・①「誘う」景観では、写真 1（シーンA）からの景観で緑量が減少し、石垣の稜線が視認できるようになる。
- ・②「楽しむ」景観では、特に写真 7、8 で緑量が減少し、石垣・櫓の視認量が増加する。
- ・③「感じる」景観では、石垣直近は除伐量が多いため、ほとんどの地点で樹木量が減少している。特に写真 10（シーンG）、11、12 の隅部および階段付近の樹木量・石垣視認量の変化が大きい。また、写真 14 では隅部の樹木を除伐することにより、四阿から園内への眺望が視認できるようになる。



シーン 2 における樹木量・石垣視認量の変化



## 5-4. まとめ

本計画では、景観テーマを「城と公園の多様な緑とが調和し、かつ明石城の魅力を感じられる

「城を活かした公園の景観」とし、明治時代の明石公園・明石城の景観を目指すため、樹木の除伐・剪定計画を策定した。

整備後（フォトモンタージュイメージ）では、除伐前の樹木が繁茂し、主景であるはずの石垣・櫓が視認しづらい眺望に比べ、石垣の稜線や隅部・威容がはっきりと確認できており、城と緑が調和した明石公園らしい景観が創出されることが確認できた。

JR 明石駅からの眺望を中心とした「誘う」景観づくりでは、城と緑、公園の調和に配慮し、芝生広場等にある、大径木（クスノキなど）は除伐せず、剪定とすることで、城の石垣・櫓が視認できるように計画した。

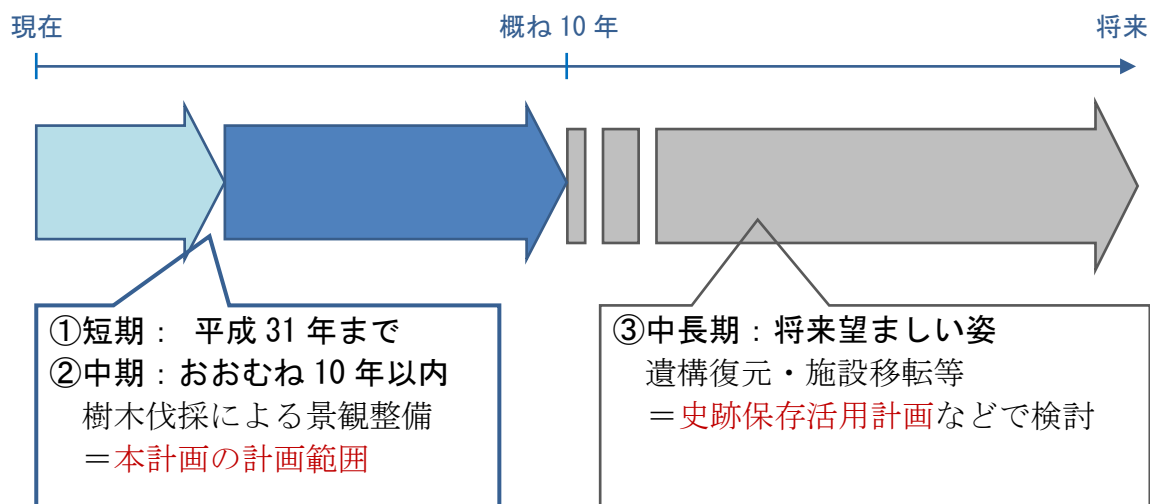
西芝生広場付近からの眺望を中心とした「楽しむ」景観づくりでは、樹木を皆伐するのではなく、可能な限り存置することで、石垣・櫓が見え隠れする動的・連続的で変化のある景観を創出することとした。

石垣・櫓直近からの眺望を中心とした「感じる」景観づくりでは、石垣から 5 m 以内の樹木を中心に石垣直近の樹木を除伐することで、石垣のスケールや構造を細部まで視認できるように計画した。

本計画の実施により、築城 400 周年を迎えるに相応しい景観が創出され、明石城の櫓・石垣の存在は、より多くの人に認知されるものと思われる。

## 5-5. 整備計画

整備は計画期間であるおおむね 10 年以内に段階的に行うため、優先順位を設定し整備計画を策定する。



### 5-5-1 平成 31 年の築城 400 周年までに優先的に整備を行う箇所

平成 31 年の築城 400 周年には、明石公園に県内外から多くの人を迎えることから、シーケンス上の視点場として設定しフォトモンタージュにより整備前後の眺望の変化を確認した箇所（シーンA、シーンD、シーンG）及びシーンB、シーンCの景観整備を優先的に行う。

- ①中遠景 明石駅プラットフォームからの眺望確保の整備（シーンA）  
JR 明石駅ホームより石垣上部が視認でき、稜線を確認できるようにするため、西芝生広場および武蔵の庭園付近の大径木（クスノキ）を剪定する。
- ②中景 正門、西側芝生広場からの眺望確保のための本丸石垣前の整備（シーンB、シーンC、シーンD）  
石垣に影響を及ぼす樹木、石垣が視点場から 1/4 程度視認できるよう整備を行う。
- ③近景 異櫓及び石垣への眺望確保のための整備（シーンG）  
石垣隅部や、櫓周辺の樹木を除伐することにより、石垣・櫓が視認できるようにする。  
また、景観整備行う前に、積極的な説明会等を開催し県民の理解を得られるよう努めるものとする。

### 5-5-2 平成 31 年の築城 400 周年以降段階的に整備を行う箇所

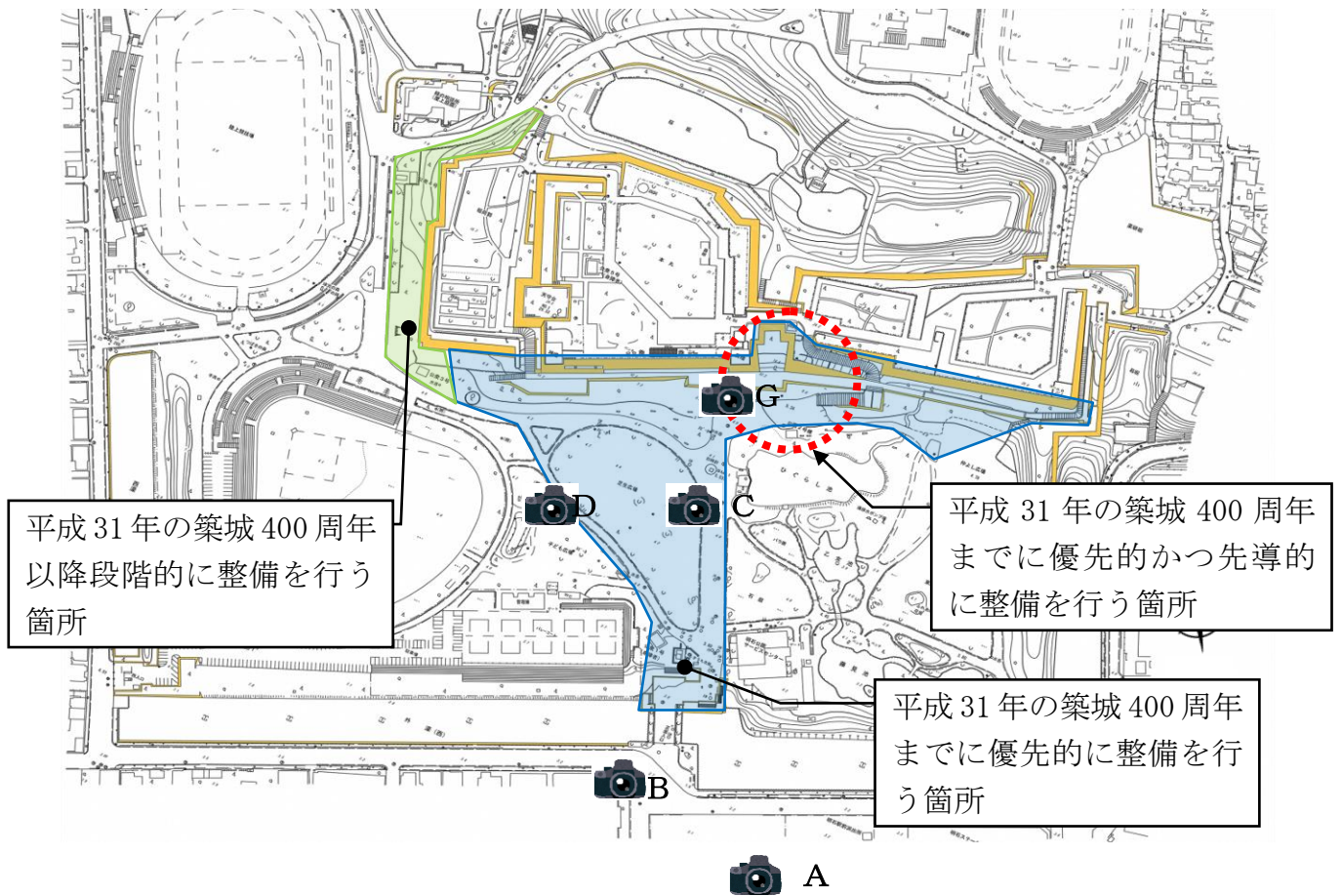
平成 31 年以降は、段階的に整備を行うが以下の優先順位をつけて行う。

- ①石垣に影響を及ぼす樹木の除伐  
石垣に影響を及ぼす樹木については放置しておく、石垣を損壊させる恐れがあり、園内の安全に関わる。また、石垣自体の魅力を低下させる原因ともなり得る。さらに、これらの樹木は、成長するにつれ除伐が困難となり、費用が膨大となる。したがって、石垣に影響を及ぼす樹木については可及的速やかに除伐する。
- ②石垣隅部・櫓周辺の樹木の除伐  
石垣隅部や、櫓周辺の樹木を除伐することにより、部分的にでも石垣・櫓が視認できるようにする。

### ③東側外堀周辺の除伐検討

園内東側にある箱堀・外堀は樹木が繁茂し、石垣が全く視認できない状態となっている。この範囲を除伐するためには、まず除伐木を選定するための調査が必要である。

魅力的な景観を創出するために、上記の整備を行う際には主要動線および各視点場からの眺望（シーケンス景観・シーン景観）の確認を行い、不都合がある場合には計画の見直し、除伐・剪定木の再選定を行うこととする。



## 5-6. 今後に向けて

### (1) 史跡保存活用計画の策定

#### ①早期策定

本計画は史跡区域内の一部の区域を対象とした中期および短期の計画であり、明石城跡全体の長期の景観計画を含む、「史跡保存活用計画」等を早期に策定する必要がある。

### (2) 外来種の除去

公園内には、ヒマラヤスギ、ラクウショウ等の外来種樹木が植樹されているが、これらの樹木は、城跡として相応しくないため、長期的には除伐を検討する必要がある。

また、外堀に生息するミシシippアカミミガメ等の外来種動物についても、城郭の日本らしい景観を阻害するとともに、本来の生態系を崩壊する要因ともなり得るため、長期的には対策を講じる必要がある。

### (3) 維持管理

今回整備する景観を保持するためには、定期的な維持管理が必要となる。

#### ①県民参加による維持管理

明石公園の魅力の発信および環境学習も兼ねて、県民参加のもと樹木や芝生の管理が行えるよう検討する。

#### ②数量的判断による剪定

樹木の剪定時期を判断する方法として、石垣からの距離によって樹高何mで剪定といった基準を設ける。

#### ③実生木の管理

樹木台帳外の樹木は維持管理の混乱のもととなるため、定期的に把握に努める。密植する場所については、樹木の生育環境を整えるため、適度に間引く。

### (4) 施設改善による景観整備

今後、よりよい景観を形成するためには、看板をはじめとする明石公園内および周辺の景観を阻害する要因となり得るものの除却、改善を試みる必要がある。

#### ①案内看板の整理

明石公園内および周辺において乱立する看板を整理し、煩雑な景観を改善する必要がある。

#### ②駅舎上屋の屋根材

明石駅前商業施設（パピオスあかし）上階からの景観を考慮し、JR明石駅および山陽電鉄明石駅上屋の屋根材・配色について検討する必要がある。

#### ③櫓・本丸展望デッキからの景観

将来的には、櫓や本丸展望デッキ等から園内、市街地に向けての眺望を整備する可能性も考えられる。その際には明石駅周辺等において建築物の色・高さ規制なども視野に入れた景観整備を行う必要がある。